

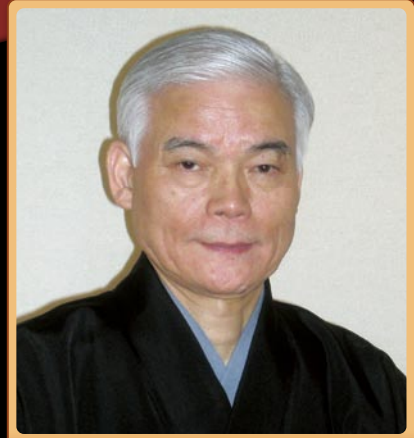


神歌

能と狂言を楽しむ会

# 島田能

島田市・川根町合併記念



永島忠修



野村萬齋



狂言 棒縛

能 葵上



島田能事前レクチャー  
『能楽入門講座』

〔日時〕8月22日(金) 19時  
〔会場〕プラザおおるり  
3階 大会議室

〔入場無料〕※要整理券

講師  
堀内正文  
永島忠修

〔問い合わせ〕観光文化課  
(0547) 361722

2008年 9月7日(日)  
島田市民会館ホール

6月28日(土)  
前売券発売開始

■開場 / 12:30 開演 / 13:00

■入場料 全席指定 (消費税込) S席 5,000円 A席 4,000円 学生席 1,500円  
(高校生以下) (当日券 / 2,000円)

未就学児の入場はご遠慮願います。 (当日券 / 5,500円) (当日券 / 4,500円)

■主催：島田市 / 島田市教育委員会 / ㈱まちづくり島田 ■後援：静岡新聞社 / 静岡放送

プレイガイド □プラザおおるり ☎0547-36-7222

※「プラザおおるり」では、前売券の発売を6月28日(土)午前8時30分より開始いたします。発売当日は窓口販売のみとなります。発売当日はお一人様10枚までとさせていただきます。

□サウンドイシカワ ☎0547-36-3000 □すみや藤枝瀬戸新屋店(藤枝) ☎054-643-9511

□池田時計店(初倉) ☎0547-38-0061 □川根文化センター ☎0547-53-3511

□夢づくり会館 ☎0547-46-0075 □電子チケットぴあ ☎0570-02-9999 (Pコード 387-663)

□大鉄観光サービス ☎0547-46-3131 ※プレイガイドにより枚数制限及び発売時間が異なりますのでお問い合わせください。※「チケットぴあ」はS席・A席のみの取り扱いとなります。

お問い合わせ (株)まちづくり島田 ☎0547-36-7222

# 島田能

能と狂言を楽しもう

## 《趣旨》

日本古来からの伝統芸能であり、また世界遺産にも指定されている能楽を市民の皆様にも紹介致します。是非この機会に日本が誇る芸術を堪能して頂きたい御案内致します。

主催者

## 番組

### 神歌

翁 遠藤六郎 千歳／弘田裕一  
地謡 駒瀬直也 長沼範夫 遠藤和久  
奥川恒治

### 棒縛

太郎冠者 野村萬齋 主／破石晋照  
次郎冠者 深田博治  
後見 月崎晴夫

### 《能》

### 葵上 梓ノ出

シテ 永島忠彦  
ツレ 古川充  
ワキ 野口能弘  
フキ 野口珠弘  
間見 破石晋照 長沼範夫  
後見 遠藤六郎  
笛 竹市学  
小鼓 幸正昭  
大鼓 安福光雄  
太鼓 三島卓  
地謡 五木田三郎 弘田裕一  
遠藤和久 奥川恒治  
佐久間二郎 小島英明 遠藤喜久

## プロフィール



永島忠彦 (ながしまただし)

1940年(昭和15年)生まれ 能楽観世流シテ方  
社団法人観世九阜会所属・九阜会理事  
日本能楽会会員・重要無形文化財総合指定保持者  
故永島誠二及び故二世・現三世観世喜之に師事  
亡父永島誠二は昭和20年代より島田市にて謡曲指導を担当、その後平成11年8月より引き継ぎ、現在に至る。  
1964年独立。観世九阜会・定例会・別会においての演能。  
1973年から自主演能活動「永島忠彦能の会」を設立。  
海外活動では、1999年アメリカ3大学公演・能「葵上」。  
2000年オランダ・ベルギー7都市公演・能「葵上」。  
2002年日韓友好年を記念して金海市において能「羽衣」「翁」。そのほか6回にわたりヨーロッパ公演13カ国参加。  
能楽普及では、1975年より武蔵大学へ30年間謡曲指導。  
1995年より女子美術大学で非常勤講師として講座を担当する。  
復曲・秘曲  
1999年には能「婆相天」を復曲し発表。2006年三老女物のうち「姨捨」を抜く。



野村萬齋 (のむらまんさい)

1966年(昭和41年)4月5日生まれ  
野村万作の長男  
重要無形文化財総合指定保持者  
祖父故六世野村万蔵及び父に師事  
3歳で初舞台  
東京藝術大学音楽学部卒業  
国内外で狂言の普及を目指す一方、新しい演劇活動にも意欲的に取り組む。  
芸術祭新人賞、芸術選奨文部科学大臣新人賞、朝日舞台芸術賞、紀伊国屋芸術賞等を受賞。  
世田谷パブリックシアター芸術監督。  
著書に「萬齋でござる」(朝日文庫)、「狂言三人三様野村萬齋の巻」(岩波書店)など。  
NHKドラマ、及び古典に限らず新しい芸能にも多数出演。  
今年NHK「鞍馬天狗」出演。  
5月に蛭川幸雄演出『我が魂は輝く水なり』尾上菊之助と競演。  
今後も日本を代表する役者として活躍が期待される。

## 解説

### 「神歌(かみうた)

能の翁に謡う謡(うた)です。

「とつとつたりたりとつ」と謡いはじめ、呪文のような言葉で神の神託を受けた翁が、天下泰平、五穀豊穡を祈念し、謡い納めます。筋書きの無い、神様の能です。

本日は神に意義を正し、島田市の末永い繁栄を願って勤めます。

### 「狂言」

#### 「棒縛(ぼうしぼり)」

用があつて外出する主人は、太郎冠者・次郎冠者の召使い2人に留守を言い付けます。しかし、二人は留守をするといつも酒を盗んで飲む悪い癖があるので、主人は一計を案じ、太郎冠者は後ろに手を縛り上げ、次郎冠者は長い棒に両手を括り付けてしまいます。不自由な身の上になつてもやはり酒を飲みたいもの、酒蔵の戸を開けた二人は目の前の酒壺を見て大喜びし、苦心参働しながら、縛られた手でお互いに酒を飲ませ合い、上機嫌になった二人は、飲めや謡えやの酒盛りを始めます。その真最中に戻つて来た主人は、賑やかな酒宴を見つけて腹を立て、そつと背後から忍び寄り、二人を打ち捉えようとして、二人は慌てて逃げ出します…。中世のおおらかで陽気な劇をお楽しみください。

### 《能》

#### 「葵上(あいのうえ)」

光源氏の正妻葵上はこのところ健康がすぐれません。どうも物の怪が取り憑いたようなので、巫女(ツレ)に頼み霊を呼び寄せてもらいます。枕元に現れた霊は破れ車に乗つた六条御息所の怨霊(シ)です。御息所は過去の華やかな生活と現在の不遇を嘆きます。そして、かつて賀茂の祭りの時自分の車を壊されはすかしめられたことや今はもう来なくなった源氏への募る思いを述べます。その恨みを述べていくうちに御息所の思いが増し、ついに気持ち爆発し葵上を打ち据えようとして、(中入り)  
そこで、今度は比叡山の修験者(ワキ)に頼み祈禱すると、怨霊は鬼の姿となつて現れます。しかし行者の法力に負け、ついに祈り伏せられます。

舞台前方に出される一枚の衣は病床に伏せる「葵上」を意味します。能の演出効果の面白いところです。

今年「源氏物語」が生まれて二〇〇〇年。ここに「葵上」の名作がよみがえります。

能は、装束を着た役者はもちろん大事な役目ですが、その他音楽を担当する囃子方、情景や心情を述べる場面等、謡い担当の地謡(コラス)の役目と、後見、それぞれが協力しあつて作り上げる総合された芸術です。もちろん参加している観客の皆様にもその一役を担っていたくこととなります。



● JR東海島田駅から徒歩7分 バス停プラザおおるり前下車  
● 東名吉田I.Cから7km 車で20分

### 【お願い】

駐車台数に限りがありますので、なるべくバス等の公共交通機関をご利用ください。